



下水道事業PRプロジェクトチーム



下水道事業PRプロジェクト2021年度チームメンバー

【普及啓発・広報編】

case
07

京都市(京都府)

プロジェクトチームで”見えない水”をPR

有志若手職員のチーム力による広報大作戦

京都市は、京都の水問題解決に向けて継続的な取組を進めるために「京都市水共生プラン」を2004年3月に策定しました。この水共生プランでは、「水と共に生きる」という水共生の理念のもと、市民、NPO、事業者、行政等がそれぞれの役割を認識し、互いに連携して健全な水循環の構築に取り組んでいます。

このプランの推進に際しては、上下水道事業が重要な役割を担っています。そこで、京都市上下水道局においては、市民生活を支えるインフラとしての上下水道の重要性及び有用性を市民に向けて分かりやすく周知し、上下水道事業に対する理解と関心を深める広報活動を、有志の若手職員によるプロジェクトチームが牽引して積極的に推進しています。



2020 | 2010 | 2000 | 1970

- 2012 下水道PRポスター
- 2011 「下水道事業PRプロジェクトチーム」始動
- 2009.9 「下水道事業開始80周年記念事業プロジェクト」設立
- 2009.3 「京都市水共生プラン」策定
- 2008.3 「第3回世界水フォーラム」開催
- 2001 「京都市下水道マスタープラン」「京都市水道マスタープラン」策定

公共用水域の水質汚濁が深刻化

計画の概要

京都市水共生プラン
〜私たちの手でみずみずしい都市とくらしの再生を!〜

これまでの取組

第3回世界水フォーラムを契機に京都市は、水に関わりのある行事や神社・仏閣、友禅染、京料理などの伝統産業や食文化等、水と密接に結びつきながら発展してきました。しかし、京都の近代化の中で都市化がさらに進行し、市街地の拡大に伴い、水との関わりも変化して治水問題、水質問題、水循環系の変化、水に対する意識の変化、水資源の確保と雨水利用といった様々な水問題が課題となってきました。京都が水のまちとして再生するためには、これまでの長い歴史の中で培われた京都の人々と水との細やかな関わりを取り戻す必要があります。

そこで、京都市では、2003年3月に京都を中心とした琵琶湖・淀川流域で開催された「第3回世界水フォーラム」の成果を踏まえ、都市型水害の軽減や自然な水循環の回復などの水問題解決に向けて継続的な取組を進めるため、2004年3月に「私たちの手でみずみずしい都市とくらしの再生を!」を基本理念とした「京都市水共生プラン」を策定しました。

この水共生プランは、今後の京都のあるべき姿を市政の主役である市民の視点から描く「京都市基本構想」に基づく水に関するマスタープラン

京都市は、水に関わりのある行事や神社・仏閣、友禅染、京料理などの伝統産業や食文化等、水と密接に結びつきながら発展してきました。しかし、京都の近代化の中で都市化がさらに進行し、市街地の拡大に伴い、水との関わりも変化して治水問題、水質問題、水循環系の変化、水に対する意識の変化、水資源の確保と雨水利用といった様々な水問題が課題となってきました。京都が水のまちとして再生するためには、これまでの長い歴史の中で培われた京都の人々と水との細やかな関わりを取り戻す必要があります。

そこで、京都市では、2003年3月に京都を中心とした琵琶湖・淀川流域で開催された「第3回世界水フォーラム」の成果を踏まえ、都市型水害の軽減や自然な水循環の回復などの水問題解決に向けて継続的な取組を進めるため、2004年3月に「私たちの手でみずみずしい都市とくらしの再生を!」を基本理念とした「京都市水共生プラン」を策定しました。

この水共生プランは、今後の京都のあるべき姿を市政の主役である市民の視点から描く「京都市基本構想」に基づく水に関するマスタープラン



京都市水共生プランの全体構想

5つの基本方針と行動計画で推進

京都市水共生プランは、「流域全体を見据えた治水対策」「良好な水環境の実現」「健全な水循環系の回復」「ゆたかな水文化の創造」「雨水の利用」の5つの基本方針を柱としています。

水に関する問題は行政だけでは解決できず、市民一人一人の水に対する思いが大切であるという基本認識に立ち、京都市水共生プランで具体的に取組むべき課題や事柄について「京都市水共生プラン(行動計画(指針))」を毎年策定しています。



京都市水共生プラン(左)と行動計画(右)

流域マネジメント、ここが「鍵」

「鍵」その1

「下水道事業PRプロジェクトチーム」を 結成し広報を牽引

京都市水共生プランを推進する中で、下水道事業は、水害の軽減や水循環の健全化に大きな役割を果たしています。一方で、下水道は人の目に触れる機会が少なく、目立たない存在であるため、市民生活を支えるインフラとしての重要性及び有用性を分かりやすく周知し、下水道事業に対する理解と関心を深めることが重要です。

京都市は、2010年に下水道事業80周年を迎えるのを契機に、その前年に「下水道事業開始80周年記念事業プロジェクト」を立ち上げ様々



子ども向けの参加型イベント開催



「下水道の日」街頭キャンペーンの企画運営



京都市ウェブサイトでのPRチーム紹介

な広報活動を展開しました。この80周年記念事業における広報活動の経験は今後も生かしていきたいとの職員の声を受ける形で、2011年に「下水道事業PRプロジェクトチーム」に名称を改め、現在も職員自らが工夫を凝らし、手作り感溢れる下水道事業の広報活動を展開しています。

メンバーは有志で募った若手職員

プロジェクトチームのメンバーは毎年募集が行われ、「市民に下水道への理解と関心を深めて頂く」という目的に賛同した有志の職員でチームが結成されます。

例えば2021年度は、京都市上水道局の下水道部・技術監理室から計15名、平均年齢27歳の若手職員でチームが構成されています。

活動内容はメンバーの発案で

プロジェクトチームの活動内容は、その年のチームメンバーによる



2018年度の活動経過



プロジェクトチーム全体会議の様子

全体会議で話し合ってから決められます。チームの結成当初から継続して取り組まれ、市民の反響も大きい「施設見学会」や「下水道PRポスター制作」のほか、年度によって、ホームページの充実、他都市とのコラボレーション、子ども向けPR活動、啓発グッズの企画制作、打ち水アート動画の制作などにも取り組んできました。

活動内容を決定後、チーム内の小委員会などで企画立案や様々な広報活動を実践しています。

「鍵」²
その
**上下水道施設の見学会で
水の大切さをPR**

京都市上下水道局では、浄水場や水環境保全センター等の一般公開や施設見学会を開催し、子どもから大人までが楽しく学ぶ機会を提供し、市民に上下水道事業への関心と理解を深めてもらう取組を継続的に実施しています。

上下水道局若手技術職員は、これらの取組をスキルアップの機会と捉え、積極的に参加しています。

下水道事業では、例年ゴールデンウィークに開催している鳥羽水環境保全センターの一般公開において、「下水道事業PRプロジェクトチー



蹴上浄水場の一般公開



鳥羽水環境保全センターの一般公開

ム」のブースを出展しています。また、2019年度にはチームのメンバーがツアーガイドとして施設を案内する施設見学バスツアーや水処理の過程を学んでもらうクイズなどを企画しました。さらに、夏休み期間中に開催している水環境保全センターの施設見学会でも、「下水道事業PRプロジェクトチーム」は当日の案内役を担っています。

下水道事業では、蹴上浄水場の一般公開において、PRチーム「MIYAKO PROJECT」が、謎解きイベントやフォトコンテスト、下水道周辺を散策するガイドツアーを実施しました。

「鍵」³
その
**インパクトある下水道
PRポスターの制作**

下水道事業PRプロジェクトチームで長年取り組む活動のひとつにPRポスターの制作があります。チームでアイデアを出し合いながら、インパクトのあるポスターを毎年制作し、京都市上下水道局の各営業所はもちろんのこと、京都市内の広報板、京都市営地下鉄全駅、市内の学校、市役所や区役所・支所、また図書館等で掲示するとともに、京都市のホームページからも自由にダウンロードして利用できるようにしています。

例えば2020年度のPRポス



2020年度下水道PRポスター

ターは、総延長が約4200kmある京都市の下水道管の異変をアプラー（油やキノネー（木根）など悪いキャラクター風に、下水道管内の異変を見つけ出す当局職員を探偵風に表現し、アニメ風に仕上げています。京都市の職員が、目に見えない下水道管の維持管理に取り組んでいることをPRしています。



これまで制作した下水道PRポスターの一例

流域マネジメント、ここにも「注目」

注目1 啓発グッズで下水道をより身近な存在に

下水道をより身近に感じてもらいたいとの思いから、PRを目的に制作した下水道グッズを、イベント等で積極的に配布しています。

例えば微生物カードは、下水処理で活躍する微生物をモデルにデフォ



オリジナルトイレトペーパー

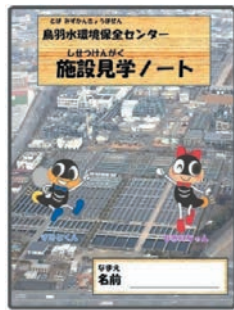
ルメし、裏面では微生物の顕微鏡画像やその特徴を紹介しています。また、水循環をロール部分で表現したオリジナルトイレトペーパー、マシンの蓋をデザインしたクッションストラップ、施設見学時に参加者がメモを取りながら学べるように工夫した施設見学ノートなどをこれまで制作し、配布しています。



微生物カード



クッションストラップ



施設見学ノート

注目2 災害用備蓄飲料水「京のかがやき 疏水物語」

2003年3月に開催された、第3回世界水フォーラムをきっかけに、災害時に備えた飲料水の備蓄啓発を目的として、2003年に、「京の水 疏水物語」の製造を開始しました。

2018年3月、名称を「京のかがやき 疏水物語」に変更し、保存期限は5年間から10年間に延長しました。飲料水の備蓄啓発にあたっては、関係部局と連携しながら、各種イベント等における「疏水物語」を用いた飲料水の備蓄啓発活動をはじめ、ホームページやツイッター等のSN



疏水物語



イベントでの疏水物語の配布

Sにおいて「疏水物語」に関する記事を掲載するなど、飲料水の備蓄啓発を継続的に実施しています。

注目3 「水に関する意識調査」を事業運営にフィードバック

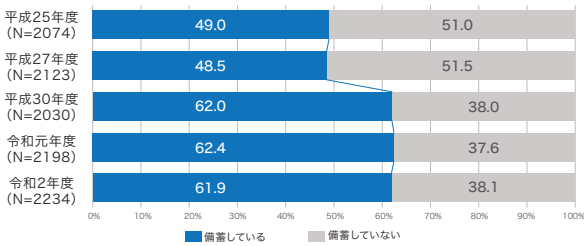
京都市上下水道局では、2005年度から2020年度までに計7回、市内に在住する住民を対象に「水に関する意識調査」を実施しています。

この調査は、市民と行政が水環境の改善に向けて共通理解を深めていくために、今後どのような支援・施策が必要か把握し、市民から水に関する意見やアイデアをいただくために実施しています。

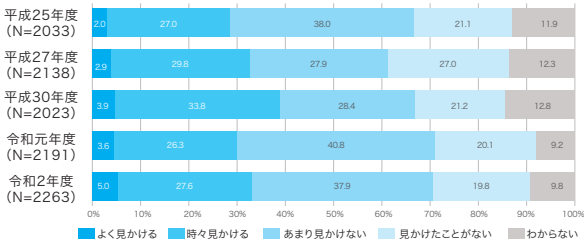
調査結果を分析し、市民の水の利用状況や節水への取組等の水に対する意識と行動を把握しています。

また、この分析結果は、節水型社会の中で公営企業として経済性を発揮しつつ、市民の期待に応え続けていくための必要な情報とするとともに、今後の事業運営を検討するための基礎資料にしています。

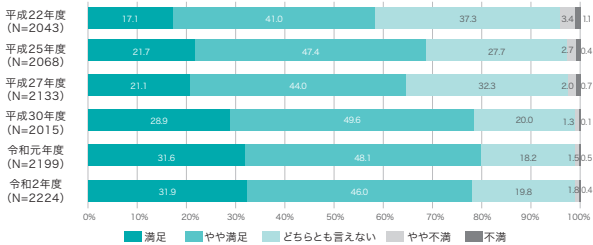
なお、回答率のアップに向けては、回答者のうち抽選でオリジナルマイボトルをプレゼントするなど、少しでも多くの市民にご回答頂けるよう工夫をしています。



あなたのご家庭では、飲料水の備蓄をしていますか。



水道・下水道に関するポスター等について、どのくらい見かけることがありますか。



京都市の水道・下水道全般について、どの程度満足していますか。

活動の効

広報の効果は改善傾向
災害時の備蓄状況及び
上下水道の満足度は
高い水準を維持

2020年度「水に関する意識調査」の調査結果から、市内の家庭における災害に備えた飲料水の備蓄状況は6割を超える数値を維持していることが分かりました。
広報活動の認知度（イベント・ポスター等を見たことがありますか？）は、「よく見かける」「時々見かける」の割合が前年より増加しており、改善傾向がみられました。
また、水道事業・下水道事業全般

の満足度については、「やや満足」の割合が約半数で最も高く、「満足」の割合（約32%）を加えた約8割が肯定的な回答となりました。

メッセージ
京都市上下水道局
下水道事業PR
プロジェクトチーム



下水道事業PRプロジェクト2021年度チームメンバー

取組を伝え広げていくポイントは？

メンバーの経験年数等に関係なく全員からアイデアを吸い上げられるよう、取組内容を決めるディスカッションにおいては様々な工夫をしています。過去には全員でのゲーム形式や、グループ単位での役割分担を変更しながら議論を進めることなどを行いました。また、毎年1つの新規の取組を行うことも目標としており、下水道への注目度をより高められるよう努めています。

今後に向けて

市民の目に触れる機会が少なく目立たない存在である下水道について理解と関心を深めていただくことを継続目的として、今後も様々な活動を企画していきたいと考えています。活動内容の部分では、毎年取組となっている施設見学などはさらに改良しつつ、若手目線の柔軟な発想を生かした新しい企画にも次々と挑戦し、活気あふれるチームとして活動していきたいと思っています。